

戦後70年を考える

ノンフィクション作家
保 阪 正 康

- *戦前・戦後の14年間という符号
- *同時代史と歴史の違い
- *太平洋戦争における3つの錯誤
- *日本の軍事学には思想がなかった
- *唯一軍事学を作ろうとした石原莞爾
- *戦後日本が戦間期の思想を持たない意味
- *平和憲法と言った瞬間、発想停止に
- *軍事エリートが現場を知らない悲劇
- *終戦時に資料を焼却した軍と行政の無責任
- *戦争の悲惨を理解するには想像力が必要



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、ご高名の保阪先生に来ていただきました。ノンフィクション作家で評論家でもありますけれども、特に昭和の時代、近現代史を中心にいろいろ著作を書かれておられます。それから、医療の問題につきましてもご著書がございます。今日が入り口のところ、東洋経済新報社から出ました半藤一利さんとの対談の本、2冊を販売しております。多少割引になっておりますのでぜひお買い求めいただきたいと思えます。先ほど伺いましたら、3冊目に向かって、もうすぐ半藤さんと対談をされるご予定だそうです。ございます。これで三部作として完結されま

す。それから、これもほかのところでお書きにな

っているのでご存じの方がいらつしやるかもしませんが、石橋湛山の首相70日間にスポットを当てた本を東洋経済から出すということで計画があるそうでございます。私どももたいへん期待しているところであります。

今日は、同時代から歴史のほうへ移行しているもの、どういふものだったか、どういふふうにかえたらいいのかについてお話しいただきたいと思えます。それでは保阪先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

保阪 ご紹介いただきました保阪正康と申します。

昭和14年の生まれなので1939年ですね。75歳です。昭和21年4月、小学校に入りました。